



1. 計画課題の整理

(1) 栗国の魅力的な自然環境と島固有の伝統文化の保全・継承・活用

本村はリゾート開発等が行われず、豊かな自然が色濃く残されており、特に植物や野鳥、地質等については学術的にも希少性が高く、島の宝が残されています。また、伝統的な集落景観と村民生活に息づく島固有の伝統文化が現在も残っています。

来訪者アンケート調査やモニターツアーの実施においても、本村の魅力として「観光地化してないところ」、「豊かな自然環境や残されている集落景観」、「のんびり・ゆったり島時間を過ごせること」といった意見が多くあがっています。村民意向調査においても、栗国村で最も誇れるものとして「島の自然」「ヤガン折目（ウユミ）等の伝統・文化」が最も多く、友人・知人等に案内する場所とその理由についても、「マハナ・筆ン崎」「長浜ビーチ」「洞寺」「海及び海岸沿い」が多く、「自然が作り出す風景がきれい」等とする理由が多くあげられています。

一方、本村では島内道路や空港拡張の整備、観光化の進展により、海への眺めが良いところや集落内等、島外からの企業等による無秩序な土地開発が懸念されています。また、島内では近代的な住宅への建替えや台風等による伝統的な空き屋家屋の損失、高齢化の進展等による集落景観の維持保全が危ぶまれています。そのため、貴重な自然環境や集落景観を守り、継承していくとともに、島の魅力を高める風景づくりを進める必要があります。

本村の観光振興はこれからです。島の自然や歴史文化を守り、継承していくためにも、村民が島の魅力を発見・学習し、島への愛着心を育み、みんなで栗国島の観光を振興していくことが重要です。そのためにも、地域を知るための機会やそれを活かせる場を提供していくことが必要です。また、観光客にとって、その土地ならではの体験は強い印象を与え、時には大きな感動を生み出すことから、島の魅力を活かした体験メニューを拡充していく必要があります。

(2) 粟国らしい、こだわりのある「海の幸」「大地の幸」の推進

観光客にとって、旅先での食事や地元の特産品・土産品は関心が高く、旅先での印象として強く残ります。島嶼環境である本村は、沖縄本島からの食料等の調達途絶えてしまうことがあるものの、自生する野草をつかった料理や海水でつくったゆし豆腐等、地元の食材をつかった食事の提供は観光客には好評です。

また、村民参加のラウンドテーブルでは、今後の観光振興で特に重要と思われるものについて、自生する野草をつかった薬膳料理等のメニュー開発や地元で獲れた魚を食事のメニューにする等といった「粟国らしさにこだわる『食』の提供」に関する意見が多くあげられました。その一方、地元で獲れた魚介類等は流通していない、野草をつかった料理の仕方がわからない等の状況もあることから、地産地消の推進や地域食材にこだわった「食」の研究・開発をしていくことが必要です。

粟国と言えば、ソテツ、塩、トゥージ、むんじゅる節等がある程度知られていますが、県民でさえも粟国島がどこにあるのかわからない状況もあり、知名度は低いと言わざるを得ません。また、特産品としてソテツみそ、黒糖、粟国ようかん、もちきびかりんとう、粟国の塩などを生産していますが、島内販売と離島フェア等の出店にとどまっている状況です。地域の特色のあるブランド等の創出はイメージアップやアイデンティティを高めるうえで効果的であることから、特産品等の粟国ブランドを研究・開発し、島外への普及を図り、粟国島の知名度を高めていく必要があります。

(3) 人と人とのふれあい交流による感動の創出

近年、旅行スタイルは、従来の通過型・団体型の観光から、訪れる地域の自然・生活文化・人とのふれあいを求める交流型・個人型へと転換しています。そうしたなか、全国各地で観光を通じた人と人とのふれあい交流が行われています。少子超高齢化社会を迎えた本村においても、来訪者と島の村民によるふれあい交流の機会を創出することが重要です。

一方、著名な観光地でも人的サービスが悪かったために、その観光地全体がつまらないものに見えることもあります。すばらしい地域資源があっても、魅力を伝えてくれる「人」の存在が重要となります。本村では、観光協会による観光ガイドのスタッフを募集しているところですが、人材の確保・育成等が課題となっています。

本村の地域資源は村民の身近なところや暮らしのなかにあります。その地域資源は観光客を呼ぶための道具ではなく、島の大切な宝です。観光客と村民の良い関係づくりができるよう、島のルールをつくることも必要です。

(4) 島内外ネットワークの強化

クチコミ、新聞、テレビ、ラジオからインターネット、カーナビ、携帯電話など、情報発信媒体の選択肢は加速度的に広がっています。特にパソコンや携帯電話は急速に普及しています。小離島の栗国島に「行ってみたいな」と興味をもってもらうためにも、リアルタイムな島の活動を定期的に発信し、多くの人に知ってもらうことが重要です。また、観光振興は地域振興でもあることから、様々な情報を手軽に入手できるよう、観光関連のインフォメーションを充実していくことが必要です。

来訪者アンケートの調査結果をみると、本村を訪れた来訪者はビギナーが8割弱と多く、リピーターが少ない状況です。何度も足を運んでくれるリピーターの存在は、その地域の観光資源やサービスの質が高い証です。全国的に人口減少を迎えるなか、安定的な集客を確保していくためにも、リピーターの獲得がますます重要性を増しています。ビギナーの来訪者が多い本村においても、リピーターの確保や栗国ファンを増やしていくことが重要です。また、沖縄本島から近い島であることをPRするとともに、島外ネットワークの交通条件や島内の道路交通を充実していく必要があります。

(5) 持続的・発展的なしくみの構築

栗国観光の振興を牽引する要である観光協会は設立したばかりであり、観光協会独自の運営は厳しい状況です。そのため、安定的な運営ができるよう、観光協会を支援していく必要があります。また、人口が減少している本村にとって、栗国観光を支える人の住みやすい環境条件の整備や、第1次から第3次産業と連携した観光産業を育成することで、働きやすい環境を形成していくことが求められています。

